

水の 話

FujiClean NEWS

2021
Spring

no. 191

[特集]

本州と九州を結ぶ 関門海峡の記憶

海峡都市に残された美しさ歴史遺産

本州と九州を結ぶ 関門海峡の記憶

海峡都市に残された美しき歴史遺産

本州と九州に挟まれ、古くから世界への扉を開いてきた関門海峡。

世界と日本、陸上と海上、人と物、さまざまな交流拠点として急速な発展を遂げ、独自の歴史と文化を築いてきました。

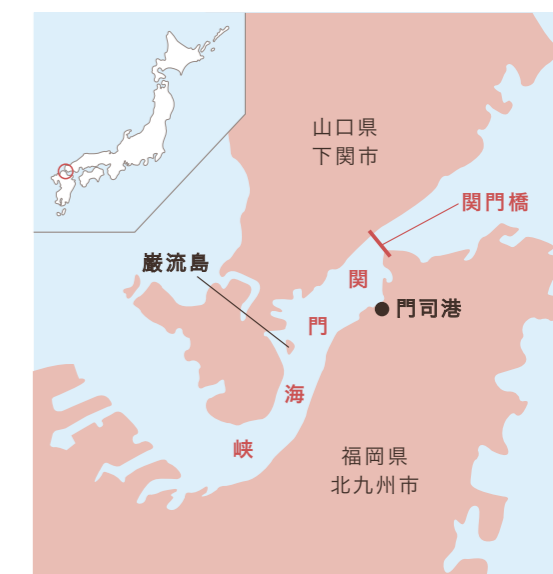
今も残る多くの近代建築と異国情緒漂うレトロな街並みからは、

時代のうねりの中を力強く泳いだ海峡都市の歩みを感じることができます。



関門海峡 DATA

山口県下関市と福岡県北九州市を隔てる海峡で、一見すると河川に見えるほど狭い海域ですが、大きく湾曲し潮流の変化が激しい「海の難所」として知られてきました。現在の関門海峡は、海外諸港と日本の主要港を結ぶ大動脈となっており、大型のタンカーや貨物船が行き交う海上交通の要衝となっています。ぼーっと鳴り響く低音の汽笛と潮騒は、環境省が選定する「残したい日本の音風景100選」にも選ばれています。



[取材協力・写真提供・資料提供]

- 北九州市 産業経済局 地域・観光産業振興部 門司港レトロ課
- 下関市 観光スポーツ文化部 観光政策課

[参考資料]

- 海峡の街 門司港レトロ物語 (北九州市 企画/財団法人 北九州都市協会 発行制作)
- 「門司港」発展と栄光の軌跡 夢を追った人・街・港 (羽原 清雅 著/株式会社書肆侃侃房 発行)
- 関門の近代 二つの港から見た100年 (堀 雅昭 著/株式会社弦書房 発行)
- 関門海峡 歴史をはこぶ運河 (古川 薫 著/新日本教育図書株式会社 発行)

人・物・文化を交流させた関門海峡。

時代を超えて活躍する海上交通の要衝

関門海峡は、元々は陸続きだった本州と九州が、約6,000年前に分断されて形成されたといわれています。本州最西端の「下関」と九州最北端の「門司」の2つの街に挟まれ、それぞれの文字をあわせて「関門海峡」と名付けられました。瀬戸内海国立公園に属し、全長は約28キロメートル。現在も大型タンカーや貨物船など、1日に約500隻もの世界各国の船が往来する交通の要衝となっていますが、海峡で最も狭い場所はわずか650メートルしかなく、潮流は最大10ノット(時速約20キロメートル)と早いうえに一日4度も流れの方向を変えることから、昔から舵取りが難しい、まさに航海の「関門」といわれてきました。しかし、日本海と瀬戸内海をつなぐ結節点のため、大陸や半島への重要な海路であり、本州と九州を結ぶ物流の一大中継点であることから、古くは7~9世紀にかけての遣唐使船、平安時代に平家が仕立てた日宋貿易船、室町期の遣明船などが盛んに海峡を往来してきました。関門海峡は、長い日本の歴史の中で、多くの人や物、さまざまな文化が交流し、多くの転換点を生みだした歴史の舞台となっているのです。

海峡に刻みこまれた数々の日本の歴史

関門海峡が歴史の舞台となった有名な出来事というと、まず1185(文治元)年の「壇ノ浦の戦い」が挙げられます。壇ノ浦の戦いは、貴族時代の栄華を誇った平家と、鎌倉で新たな価値観を発展させた源氏との最後の合戦です。両軍約4,000隻ともいわれる軍船が関門海峡に集結し、最後は源義経率いる源氏に平知盛率いる平家が敗れました。これにより時代は、貴族支配から武家支配へと大きな転換を遂げることとなります。

さらに激動の幕末において革新的なドラマとして知られるのが「下関(馬関)戦争」です。当時、関門海峡はペリー来航によって結ばれた「日米和親条約」を契機に、国際航路として英・仏・蘭の軍艦が航行していました。その状況に刺激された長州藩が1863(文久3)年にアメリカ商船ペンブローク号に砲撃したのを皮切りに始まった戦争で、翌年、英仏米蘭4か国連合の艦隊が来襲し砲撃戦となり、長州藩が惨敗。しかし、この戦いをきっかけに日本は「開国」へと舵を切り、明治維新へ突き進んでいきました。

開港による国際港湾都市としての発展と栄華。

文明開化をもたらした下関港・門司港の国際航路

下関戦争の大敗により、長州藩は高杉晋作を全権大使に任命し講和交渉に臨みました。これによって下関港が事実上開港されると、外国船が安全に入港できるように海峡の出入りに灯台の設置が求められ、六連島灯台と部埼灯台の双子の洋式灯台が設置されました。

その後、江戸時代から北前船の寄港地だった下関港は、1875(明治8)年に上海定期航路寄港地として開港指定を受けます。一方、当時は塩田の寒村で何もない地だった門司港ですが、1889(明治22)年に特別輸出港に指定されました。輸出品目は石炭、米、麦、麦粉、硫黄の5種で、当時エネルギーの主役であった石炭の産出地である筑豊炭田の開発が進むにつれて、石炭の輸出港としての地位を固めていきました。開港翌年には海外船の入港が飛躍的に増え、石炭の中継貿易、大陸貿易の基地として、アジア大陸への交通・貿易の窓口として、大きな発展を遂げていきます。下関港・門司港の2つの港の開港によって、関門海峡を取り巻く都市は、国際港湾都市として次第に大きく注目を集めるようになっていきました。

金融・商社の進出による街並みの西洋化

1891(明治24)年になると、門司地区に九州鉄道(国鉄の前身会社)の門司駅(現・門司港駅)が開業し、九州の鉄道拠点となります。陸上と海上運輸の集積地として賑わうようになると、大手商社の進出も相次ぎ、三井物産や大阪商船、日本郵船の出張所、三菱合資支店などが置かれました。さらに日本銀行の西部支店が下関から移転すると、港の将来性に目をつけた東京、大阪の金融資本も次々に進出。金融の中心地としての地位も確立していきました。

こうして多くの主要機関が進出すると同時に、さまざまな近代建築が現れ始めます。1901(明治34)年に関門地域の国際的な重要性をいち早く見出した駐日英国公使アーネスト・サトウの提案によって下関に英国領事館が開設され、5年後には煉瓦造りの下関英国領事館が建設されました。その後も咲寿栄一的设计による旧門司税関、エキゾチックなタイル仕上げが印象的な旧大阪商船、ヨーロッパ伝統の木造建築工法を用いた旧門司三井倶楽部、海峡を一望できる豪華な料亭・三宜楼など、当時の栄華を物語る多様な建築物によって独自の街並みが形成されていきました。



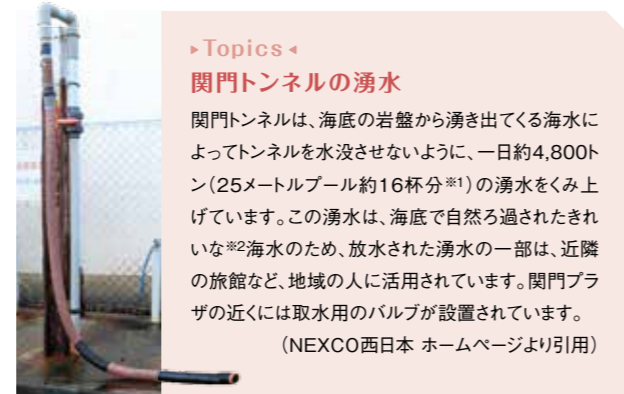
- 1-2. 下関市のみもすそ川公園にある源義経像・平知盛像と下関戦争で使用された長州砲の複製
3. 関門海峡では、大型船舶が激流の中を行き交う姿を間近に見ることができます
4. 高さ9.3メートルの重厚な石造りの部埼灯台は、英国人技師R・Hプラントンの設計
- 5-6. 明治期の外交関連施設の典型を示す旧下関英国領事館。1999(平成11)年に国の重要文化財指定
7. 1921(大正10)年に三井物産の社交倶楽部として造られた旧門司三井倶楽部。アインシュタイン博士が来日した際に宿泊しています
8. かつて大手企業や銀行の社交場として利用された三宜楼。現存する料亭建築としては九州最大の大きさ

本州と九州を結ぶ世界初の海底トンネルの完成

門司地区の発展に伴い、必要となってきたのが輸送力の強化です。それまで海峡は関門連絡船で結ばれていましたが、潮流が急で流向の変化も激しい関門海峡の運航は困難と危険を伴っていたため、本州と九州を結ぶトンネル建設が計画されました。最初につくられたのが山陽鉄道(現・山陽本線)の通る関門鉄道トンネルで、下りが1942(昭和17)年、上りが1944(昭和19)年に開通し、世界初となる海底を走る鉄道トンネルが誕生しました。鉄道から遅れて国道トンネルの建設も始まりましたが、第二次世界大戦による資材不足や戦災などによる一時中断もあり、約20年もの歳月をかけて1958(昭和33)年に関門トンネルが貫通しました。上は車道、下は徒歩で渡れる人道の2層構造となっており、大きな話題を集めました。その後も、1973(昭和48)年に高速道路が通る関門橋、1975(昭和50)年に山陽新幹線が通る新関門トンネルが完成し、多様な交通網で本州と九州が結ばれる新たな交通時代が始まりました。

しかし、こうした交通網の発展により、それまで陸上と海上交通の結節点としての役割を担っていた海峡都市は、本州~九州の通過点となり、その特性を失っていきました。さらに石炭産業の衰退や太平洋戦争の終結によって大陸貿易もさびれてしまったことで、関門地域のめざましい発展にブレーキがかかったのです。

■ 関門海峡地区の鉄道路線図



▶ Topics ◀ 関門トンネルの湧水

関門トンネルは、海底の岩盤から湧き出てくる海水によってトンネルを水没させないように、一日約4,800トン(25メートルプール約16杯分※1)の湧水をくみ上げています。この湧水は、海底で自然ろ過されたきれいな※2海水のため、放水された湧水の一部は、近隣の旅館など、地域の人に活用されています。関門プラザの近くには取水用のバルブが設置されています。
(NEXCO西日本 ホームページより引用)

※1 25メートルプール(25×10×1.2メートル)1杯は300トンとして算出
※2 水質は年間で安定し、塩分濃度は海水の8割程度。水生生物保護のための水質基準および水質汚濁基準をクリア。東京大学大学院農学生命科学研究科調べ



5. 門司港発祥の場所でもある旧門司第一船だまり 6. 大阪商船門司支店を修復して建てられた旧大阪商船。当時、門司港からアジアや欧州に向けて出港する客船の拠点として使われており、オレンジ色のタイルと八角形の塔屋が目印 7. 煉瓦造りかわらぶき2階建構造で建設され、昭和初期までは税関庁舎として使用されていた旧門司税関 8. 「ブルーウィングもじ」の愛称で親しまれ、全国で最大級の歩行者専用のはね橋



1. 山口県下関市と福岡県北九州市を結ぶ国道2号線が通る関門トンネル 2. 全長780メートルの歩行者用海底トンネルの下関側入口 3. 海底トンネルの中ほどにある福岡県と山口県の県境の標識 4. 関門海峡の一番狭まった「早瀬の瀬戸」に架かり、関門自動車道が通る関門橋は、全長1,068メートル、海面からの高さは61メートル

訪れる人を魅了するノスタルジックな街並み。

歴史的建造物を生かした街づくりへ

高度経済成長の波から遅れ、賑わいを失った関門地域は、かつての繁栄を象徴する重厚な建築群だけがまるで時が止まったかのように残されました。こうした歴史的建造物にも、不況や企業の赤字が原因で次第に解体の危機が迫ってきます。そこで、衰退をたどる街の状況に歯止めをかけるために、残された建造物に新たな価値を見出したのが、当時の末吉興一北九州市市長です。この貴重なレトロ近代建築を生かして、昔の豊かさの記憶を継承する街づくりを提唱。また自治省(現・総務省)で「ふるさとづくり特別対策事業」が創設されたこともあり、北九州市では「歴史的な文化遺産を活用し、すばらしい自然を生かしながら産業としての都市

型観光整備こそ、門司港の生きる道」という考えをもとに、行政主導による新しい街づくりがスタートしました。

1988(昭和63)年よりスタートした門司港レトロ事業は、「旧門司三井倶楽部」や「旧大阪商船」「旧門司税関」の修復といった歴史的建造物の保存活用をはじめ、レトロな街並みを楽しむレトロプロムナードや門司港駅前レトロ広場の整備などが順次行われていきました。また観光客や地域住民が憩うための水辺空間を形成するために、門司港発祥の場所である「門司第一船だまり」を親水護岸広場として整備し、出入口には歩行者専用の開閉式はね橋が架けられ美しいウォーターフロントが完成。1995(平成7)年に情緒あふれる門司港レトロとしてオープンしました。

関門海峡の自然と文化に触れる観光都市へ

さらに「関門海峡ミュージアム」や「門司港レトロ展望室」、「九州鉄道記念館(旧九州鉄道本社)」など多くの観光施設や夜間景観「門司港レトロナイトファンタジー」も人気を集め、当初は認知度が低かった門司港も次第に観光地として認識されるようになっていきました。また駅として日本で初めて国の重要文化財に指定された門司港駅は、当初から課題であった老朽化への対応や耐震補強のための保存修理工事を行い、2019(平成31)年3月10日にグランドオープン。創建当時の風格ある姿がよみがえり、異国情緒あふれる門司港レトロの代表的な建物となりました。

施設整備が進むにつれ地元民間企業もこれに反応し、行政、観光協会、民間企業が一体となって門司港レトロを盛り上げようと、官民合同の「門司港レトロ倶楽部」が設立され、官民一体による街づくりが動き始めました。近年は、下関市と門司区が連携した取り組みも活発化しており、こうした取り組みによって、2017(平成29)年4月に関門地域が、「関門“ノスタルジック”海峡—時の停車場、近代化の記憶—」として日本遺産に認定され、さらに国内外から関心を集めることとなりました。開業当初は107万人程だった門司港レトロの観光客も、2019(令和元)年には226万人まで増加し、関門海峡の豊かな自然とこの地に残る歴史と文化を、多くの人が楽しんでいます。かつて、さまざまな人や物、文化が交差した関門海峡は、過去と今をつなぐ日本有数の観光スポットとなって、訪れる人に憩いの時間を提供し、新しい文化を育んでいます。



1. 1988(昭和63)年に鉄道駅舎として初めて国の重要文化財に指定された門司港駅
2. 「関門海峡をまるごと楽しむ体験型博物館」をコンセプトに2019(令和元)年にリニューアルされた関門海峡ミュージアム
3. 九州鉄道記念館では、九州最初の鉄道会社として設立された九州鉄道会社の本社として建てられた本館や九州で活躍した名車両9台などを展示
4. ツリーイルミネーションや歴史的建造物のライトアップなどによって幻想的な雰囲気を演出した門司港レトロ地区



下関は、“ふぐ食解禁”先駆けの聖地！ 美味しさと毒の二面性で 人々を虜にする“ふぐ”の歴史。

下関ではふぐのことを「ふく」と呼び、福すなわち幸福につながるとされ親しまれてきました。

強力な毒を持ち、日本で唯一取り扱いに免許が必要な魚「ふぐ」。白身魚の王様と称される高級魚で、危険な毒がありながらも、その美味しさは多くの人を魅了し続けてきました。元々、日本人とふぐのかかわりはとても古く、6,000年前の縄文時代からすでに食べられていたと考えられています。しかし、今日のようにあちこちで食べられるようになるまでには波瀾の歴史をたどっており、そんな日本人のふぐ食の歴史を語るうえで外せない場所が、海峡の街・下関です。



江戸時代、ふぐは「めったに当たることはないが、当たると命を落とす」という点から、庶民の間では「てぼう」と隠語で呼ばれていました。ふぐ刺しを「てさ」、ふぐ鍋を「てちり」と呼ぶのはそのためなのです。

古くから日本人に食されてきたふぐですが、食べることを禁じられていた時代がありました。それは、豊臣秀吉が行った文禄・慶長の役(朝鮮出兵)の際、九州に集結した武士の間でふぐを食べて中毒死する者が相次いだため、「河豚食禁止の令」が發布され、全国的にふぐ食が禁止されてしまいました。以来、江戸時代を過ぎて明治期までふぐ食禁止は続きましたが、実は禁令は表向きで、下関の庶民はずっとふぐを食していたといわれています。

そして1887(明治20)年、初代総理大臣の伊藤博文が関門海峡を望む下関の割烹旅館「春帆楼」に宿泊した際、海が大しけのために漁がなくて困り果てた女将の「みち」が、お手打ち覚悟で禁止されていたふぐを御膳に出したところ、その美味しさに感嘆。翌年に伊藤博文が山口県令(知事)に働きかけたことでふぐ食が解禁されました。春帆楼は、ふぐ料理公許第一号として広く知られるようになり、日本で初めてふぐ食解禁の地となった下関はふぐの本場として全国にその名を轟かせていきました。現在下関は、ふぐの取扱量日本一を誇り、日本全国で一番ふぐが集まる街となっています。



上記写真3点 提供：株式会社春帆楼

春帆楼は、下関の迎賓館として現在も多くの人をおもてなしています。

下関春帆楼本店 〒750-0003 山口県下関市阿弥陀寺町4-2 TEL.083-223-7181

HP <https://www.shunpanro.com/>



経済産業省認定「グローバルニッチトップ企業100選」選定記念

Celebrating selection as one of "Global Niche Top Companies Selection 100" by Ministry of Economy, Trade and Industry

グローバル事業紹介 Part3 アンマーマン社



- 1992年 ドイツのウイスモアで創業
- 1993年 生物処理による排水処理システムを開発
- 2017年 フジクリーン子会社になる
- Established in Wiesmoor, Germany in 1992.
- Developed a wastewater treatment system applying bioprocessing technology in 1993.
- Established as a local subsidiary of FujiClean in 2017.

フジクリーンは、2008(平成20)年のオーストラリア、2013(平成25)年のアメリカ合衆国への拠点設立の経験を経て、海外市場で「浄化槽」を普及させるためには大きな労力と時間の必要性と、各国に対応できる商品開発の重要性を認識しました。そこで欧州へ進出するにあたり、2016(平成28)年に欧州浄化槽基準を取得、2017(平成29)年1月にドイツの浄化槽メーカーAmmermann社を買収し、欧州拠点を設立しました。Ammermann社は、ドイツの北西部に位置するウイスモアの町にあり、「Am Dobben」という工業団地で1992(平成4)年に創業されました。小型浄化槽の製造・施工・販売を行い、欧州認証に裏付けられた高性能の小型浄化槽の販売累計数は2020(令和2)年までで、17,000基を超えています。

欧州の浄化槽市場は、特に先進国においては既に成熟しているといわれており、日本の浄化槽が認知されるまでには、労力と時間を要しました。しかし、従来のコンクリート製品とフジクリーンFRPタンク製品を比較すると、性能の良さ、施工性の高さというメリットは、欧州でも高く評価されるようになってきました。また、処理後の排水の透明度についてはインパクトがあるようで、「メイドインジャパンの技術力」には、大きな驚きと感心が集まっています。

Following the establishment of bases in Australia (2008) and the United States (2013), FujiClean is aware of the considerable efforts and time required to promote the onsite wastewater treatment system or "JOKASO" in Japanese in overseas markets and the importance of product development that responds to each country's needs. In entering the European market, we obtained the European onsite wastewater treatment standards in 2016. FujiClean acquired the German wastewater treatment unit manufacturer Ammermann in January 2017 to establish a base in Europe. Ammermann, founded in 1992, is located in the "Am Dobben" industrial park in Wiesmoor, a town in northwestern Germany. It specializes in the manufacture, construction, and sales of small-scale wastewater treatment units. By 2020, it had sold a total of 17,000 high-function small-scale wastewater treatment units endorsed by the EU Certification. The market for wastewater treatment units in Europe, especially in advanced countries, is said to have already matured. It took considerable effort and time before our Japanese Jokaso was recognized. However, when comparing the traditional concrete product and FujiClean's FRP tank product, the advantages, such as outstanding performance and high constructability, have been highly rated even in Europe. It appears that the clearness of the processed wastewater had a high impact, and the "Technology Strength of Made in Japan" has garnered great amazement and interest.

担当者VOICE 技術主任 ハンス・ユルゲン・ブーア氏

私はこれまで多くのコンクリート製品を設置してきましたが、サイズが大きく重量もあるため、設置時にクレーンが必要でした。それに比べてフジクリーン製品は、軽量かつコンパクトで取り扱いが容易というのが私の第一印象でした。初めは、設置場所の状況やあるいは軽量さゆえに、タンクを垂直かつ水平に設置するのに戸惑いましたが、現在では慣れてきました。施主様の中には、コンクリート製品と比べて強度を心配される方もいらっしゃいますが、「フジクリーン製品はきちんと施工すれば、むしろコンクリート製品よりも長持ちしますよ」と、胸を張って説明しています。フジクリーンシステムの処理水が見た目にも大変にきれいなので、施主様の口コミでフジクリーン製品が広がったことも。さらにフジクリーンシステムがドイツ全土に普及し、欧州全体に広がっていくことを楽しみにしています。

I have installed many concrete tanks and as they are big and heavy, crane was usually needed. FujiClean tank is light and compact and easy to handle, was my first impression. However, it was often difficult in the beginning to get the plant set straight and horizontal because of the ground conditions, or because of its lightness. Now I am used to handling FujiClean tanks. Some homeowners are concerned about the tank strength compared with concrete. However, I am proudly convincing these people that FujiClean tanks will last even longer than concrete tanks if properly installed. I already experienced that neighbor chose FujiClean because of the clean treated water from another FujiClean system nearby. I am looking forward to seeing FujiClean systems spread all over Germany followed by Europe.



Hans-Jürgen Buhr



1.浄化槽を運搬するサービスカー 2.農場での施工風景 3.設置後のようす

Web
サービス

浄化槽の設置や維持管理などの
業務をサポートするWebサイトコンテンツをご紹介します!

フジクリーンのWebサイトでは、浄化槽にかかわる人の業務をサポートする便利なコンテンツをご用意しています。簡単な操作で、欲しい情報を入手でき、設計事務所、施工会社、維持管理会社の方々をバックアップします。

■ 処理対象人員算定シミュレーター

浄化槽を設置する建物の建築用途と算定単位を入力するだけで、人員算定ができるコンテンツです。算定結果はエクセル形式でダウンロードできるので、申請時の算定根拠資料としても利用でき、申請に必要な作業を軽減します。



■ ダウンロードコンテンツ

浄化槽の申請、施工、維持管理まで、工程ごとに必要な書類が一括でダウンロードできます。さらに、メールアドレスを登録すると、ご希望の書類に関する更新情報をメールでお知らせする便利な機能も搭載しています。



働き方
改革紹介
01
ビジネスカジュアルを
スタートしました。

フジクリーンでは、従業員の働く意欲や能力をより発揮できる環境づくりに取り組んでいます。その一環として、2020年11月からは従業員の動きやすさや働きやすさの改善を目的に、ビジネスカジュアルを導入しました。安全やマナーに配慮しつつ、一年を通じてノーネクタイ等の軽装を実施し、省エネルギー化にも貢献していきます。



組織体制
の変更

埼玉営業所が
移転しました。

2021年2月より、埼玉営業所が事務所を移転しました。新事務所は下記となります。

新住所

〒331-0812
埼玉県さいたま市北区宮原町二丁目87-1
大宮MKビル2階
TEL.048-660-5050 FAX.048-665-3575
※TEL、FAX番号が変更となりましたのでご注意ください。

もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

〈安城市〉

明治用水土地改良区



水のかんきょう
学習館 館長
山田 和史さん

愛知県西三河地域を支える明治用水の 恵みを、地域と一体となって守っていく。



小さく分割された田に稲を植えます



収穫した米は、
餅つきをして味わいます

明治用水沿いの施設を見学



明治用水は、矢作川を水源とし、愛知県安城市を中心とした岡崎市、豊田市、知立市、刈谷市、高浜市、碧南市、西尾市の西三河地域8市の農業用・工業用の水を供給しています。明治用水土地改良区は、この地域の人々の暮らしに欠かせない明治用水の大切な水を育み、届けていくために農家の組合員で構成された団体で、水路や水利施設の管理だけでなく、水資源を守っていくための幅広い環境活動にも力を注いでいます。

中でも、初代理事長の「水を使う者は自ら水をつくれ」の理念のもとに、1世紀にわたり取り組んでいるのが、矢作川上流の水源林を守る活動です。1908(明治41)年の豊田市羽布町の水源地への植林に始まり、1914(大正3)年には長野県根羽村の森林を買い入れ、大規模な造林事業をスタート。現在は、長野県を中心に約543ヘクタールもの水源林を保有・管理し、豊かな水を育てています。

また地域の方々に用水についての理解を深めて

もらうため、2011(平成23)年に学習施設「水のかんきょう学習館」がオープンしました。パネル展示や矢作川に棲む魚を集めた水槽が常設されているだけでなく、「水・農・食・環境」について楽しく学ぶことを目的とした多彩なプログラムを行っています。特に、安城市にある「水の駅21枚田」で実施する昔ながらの田植えや稲刈りの体験プログラムは人気が高く、農作業の苦労や米の大切さを学ぶことができます。他にも、地域の小学4年生の児童を対象とした「水のかんきょう楽校」では、明治用水の開削の歴史の経緯やパイプラインなどの施設、水源かん養林の働きについてVTRやパネルで学ぶとともに、実際に頭首工や水源管理所の施設なども見学し、楽しみながら明治用水について学んでもらいます。

2016(平成28)年11月8日に、明治用水は「世界かんがい施設遺産」に登録されました。この貴重な財産を、矢作川流域全体を考え、地域が一体となって守り続けていきたいと思えます。

美しい水を守る
フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋市中千種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	茨城営業所 (029)839-2271	岐阜営業所 (058)274-1011	佐賀営業所 (0952)31-9151
東北支店 (022)212-3339	宇都宮営業所 (028)625-4650	静岡営業所 (054)286-4145	熊本営業所 (096)388-3571
東京支店 (03)3288-4511	群馬営業所 (027)327-5611	四日市営業所 (059)350-0788	大分営業所 (097)558-5135
名古屋支店 (052)733-0250	埼玉営業所 (048)660-5050	和歌山営業所 (073)422-3634	宮崎営業所 (0985)32-3064
大阪支店 (06)6396-6166	千葉営業所 (043)206-5171	広島営業所 (082)843-3315	鹿児島営業所 (099)257-3501
福岡支店 (092)441-0222	新潟営業所 (025)271-8668	高松営業所 (087)869-8680	沖縄営業所 (098)862-9533
盛岡営業所 (019)604-2527	山梨営業所 (055)275-9300	松山営業所 (089)967-6123	
郡山営業所 (024)937-0800	松本営業所 (0263)27-2080	高知営業所 (088)803-1520	



発行 2021年4月1日
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室